

## ジョーダン・オカダ(98)の旅を一周

ミッド・パシフィック・コミュニティの中心には、真の努力と貢献の精神を具現化した人物がいます。それは、現在のミッド・パシフィック学校同窓会協会(MPIAA)の議長であるジョーダン・オカダさんです。彼の旅は、1992年の7年生の時から始まり、今はMPIAAの役員としての役割を果たすまでの間に、彼が母校との絆を示すものです。

## ミッドパシフィック初期の日々

ジョーダンさんは7年生として入学し、ミッド・パシフィックとの絆が始まりました。彼は迅速に、生徒会からクロスカントリー、陸上競技など、さまざまな活動に関わるようになりました。彼はまた、社会科の授業でTA(補助教師)として時間を費やし、リーダーシップと教育への彼の責任と努力の初期の兆候を示しました。

「私は常に、仲間や教師から支えられていると感じていました。この育む環境が、私の学業の成長だけでなく、個人的な成長も促しました」とジョーダンさんは振り返ります。彼のミッド・パシフィックでの時間は単に学業やスポーツについてではなく、一生続く関係を築くことでもありました。「私がその年月に作った友情は今でも強く、私たちの子供たちが友達になっているのを見るのは非常に充実感があり、以前の同級生と一緒に同窓会の役員を務めることもできています。」

## 個人的な旅

1998年に卒業した後、ジョーダンさんはハワイ大学マノア校で高等教育を追求し、MPIが築いた基盤をさらに強化しました。彼は家族経営のオカダトラッキング株式会社に加わり、最終的には総務部長の役職に就きました。彼のビジネスの洞察力は、不動産免許を取得することでさらに磨かれ、専門能力にさらなる次元に達しました。

「私のキャリアと個人生活は、私がミッド・パシフィックで得た価値観に深く影響を受けています。学校の尊敬、責任、コミュニティへのサービスに対する強調は、私が生活のあらゆる側面に持ち込む原則です」とジョーダンさんは述べています。

## 成長と適応の賜物

ジョーダンのミッド・パシフィックへの献身は、彼と妻が息子のためにミッド・パシフィックのプリスクールを選んだときに彼の個人生活にも及びました。ジョーダンさんたちは、探求を通じた学びを重視するレッジ・エミリア教育のアプローチに惹かれたといいます。「まるで故郷に帰ってきたようでした」と彼は微笑みながら、息子が自分と同じプリスクールに受け入れられた日を思い出しました。

2021年、ジョーダンさんの関与はより形式的なものになり、彼はMPIAA理事会に加わり、すぐに会長の役職に昇進しました。彼のリーダーシップのもと、理事会はMPIAAゴルフーナメントやアルムナイ

パイナ(同窓会)などのイベント、および「オウルズフォーオウルズグラント」やアルムナイレガシースカラシップなどの奨学金イニシアティブを通じて関与を促進することに焦点を当てています。

「MPIAA理事会は、卒業生の集まりだけではありません。私たちはミッド・パシフィックを前進させることに専念しているチームです。それは還元し、次世代に同じことを成し遂げることをインスパイアすることです」と彼は説明します。

卒業以来のミッド・パシフィックでの変化を振り返りながら、ジョーダンさんは特に学校の施設と教育へのアプローチの向上に感銘を受けています。「私たちが教え、学ぶ方法の進化は、複数の学びの道を受け入れることで、私たちの生徒が柔軟に考える準備ができるようになっていきます」と彼は述べています。

## 展望

ジョーダンさんが未来を見据えるとき、彼の焦点が家族とミッド・パシフィックであることは変わりません。がMPIの育む環境のおかげで息子がどんな人物になるのか、本当に誇りに思います。しかし、私の最大の誇りは、私の家族です。彼らは私の旅のすべての段階で私を支え、恩返しの重要性を教えてくださいました」と彼は言います。

ジョーダン・オカダの物語は、単なる個人の達成だけでなく、コミュニティ、継続性、そしてミッド・パシフィックへの心からの献身の物語でもあります。これは、すべての卒業生が母校の永続的な伝統に関わり、貢献するためのインスピレーションとなります。

Family photo caption: ジョーダンと彼の妻タリン、そして子供たちのジョシュア '28 とエミリー。